

# 不妊症患者に対する中髒穴刺鍼と陰部神経鍼通電の追試結果

キュアーズ長町 小松 範明

【目的】 不妊症患者に対する中髒穴刺鍼及び陰部神経鍼通電療法の有用性は本学会の第55～57、および63回大会にて鈴木らが報告している。今回、当院に来院した挙児希望患者に対して基本治療に加え中髒穴刺鍼および陰部神経鍼通電療法を実施したところ良好な結果が得られたので報告する。

【対象】 2013年7月1日から2014年7月31日の13ヶ月に当院を来院し、不妊鍼灸治療を希望した体外受精(以下 ART)による不妊治療中の新規患者25名の中で、1ヶ月以上施術継続できた16名について検討した(移植当日のみの単回施術で離脱した8名と1ヶ月未満で採卵・移植を行わなかった1名を除外した)。

【結果】 当院治療後に体外受精によって妊娠(胎嚢確認)に至ったのは9名(56.2%)、非妊娠者は7名(43.8%)であった。

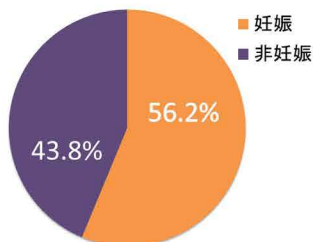


図3. 妊娠者の割合

妊娠者の経過は出産4名、妊娠継続中2名、流産3名であった。

表1. 対象者詳細

年齢	38.6±4.8歳(22~44歳)
不妊歴	31.7±22.5ヶ月
鍼灸開始前 不妊治療方法	一般不妊治療 :1名 ART :14名 不明 :1名
採卵回数	2.9±2.5回
移植回数	3.2±1.6回

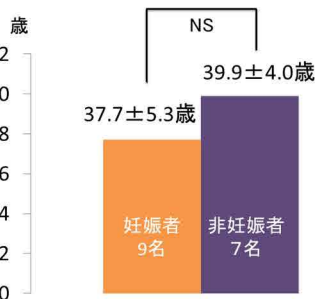


図4. 平均年齢

【鍼灸治療方法】 当院の基本治療は腹診、脈診、触診により治療穴を選穴し、全身調整、自律神経系の調節を図る目的として置鍼または単刺を行い、肩こり、頭痛、腰痛などの症状や不定愁訴があれば適宜治療穴を増減し、施灸も実施した。

これらの基本治療に加え、中髒穴刺鍼、陰部神経鍼通電を実施した。また、2014年1月より、胚移植当日から判定日まで腰愈穴、三陰交穴へパイオネクス1.5ミリを使用した。

妊娠者9名の平均年齢は37.7歳(26、32、37、39、40、41、41、41、42)、非妊娠者の平均年齢は39.9歳(34、35、39、42、42、43、44)で、有意な差は認められなかった。

表2. 16名の鍼灸治療後の詳細

平均鍼灸回数	12.4±10.8回
鍼灸後採卵回数	1.9±2.6回
鍼灸後移植回数	1.2±0.5回
総移植回数 / 胚盤胞数	19回 / 10回
妊娠率(初期胚 / 胚盤胞)	37.5% / 60.0%

16名の平均施術回数は12.4±10.8回であった。鍼灸開始後のART回数は、採卵1.9±2.6回、移植1.2±0.5回であった。総移植回数19回中、胚盤胞移植は10回であった。初期胚ならびに胚盤胞移植の妊娠率は37.5% / 60.0%であった。

【考察と結語】 これまで鈴木らによって報告されてきた不妊症患者に対する中髒穴刺鍼ならび陰部神経鍼通電を当院においても実施したところ、半数を超える患者が妊娠に至った。鍼灸治療前に約3回移植を行っても妊娠に至らなかった患者たちが鍼灸治療後1.2回の移植で半数以上が妊娠できたことは移植を繰り返しても着床しない難治例にとって大きな福音である。さらに妊娠者9名のうち7名が37歳を超えていたが、妊娠率が低下してくる年齢においても卵巣機能が保たれ、良好胚の採卵の結果、胚盤胞移植が行えたことが高い妊娠率に結びついたと考えられる。今後さらに症例を集積して報告していきたい。

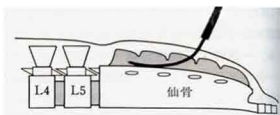


図1. 中髒穴刺鍼

中髒穴を取穴し、皮膚面から頭側へおよそ45°の角度で切皮し、仙骨上の靭帯を目安に刺入していく。刺鍼転向を数回繰り返し、約60mm刺入する。刺激方法は左右交互に徒手的刺激を合計10分間、深部に重い得氣が得られるように行う。治療間隔は週に1回

図2. 陰部神経鍼通電療法

ステンレス製90mm30号ディスプレイ用針を用いて、上後腸骨棘と坐骨結節内側下端を結ぶ線上で上後腸骨棘から50～60%の領域である左右の陰部神経刺鍼点に70～90mm程度刺入し、陰部へ響くことを確認した後に低周波置鍼療法を5Hzで10分間行う。

